

平成30年度和歌山県文化奨励賞

那智の扇祭り保存会

創立 昭和35年
代表 男成 洋三
所在地 和歌山県東牟婁郡那智勝浦町

◎ 業績及び経歴

熊野那智大社の祭礼である「那智の扇祭り」は、我が国有数の山岳信仰である熊野信仰を背景に、那智大滝に象徴される熊野の大自然よりもたらされる恩恵に感謝し、その神霊を鎮める、日本一の滝の祭礼である。祭りの起源は不明であるが、残された古記録から室町以前から行われたと推定される。

地域の安泰や大漁・萬作等を祈念し、毎年7月14日に独特の形状をした12基の「扇神輿（おうぎみこし）」に神々を遷し、那智大社と那智大滝（飛瀧神社）との間を結ぶ「御滝道（おたきみち）」に沿って渡御（とぎよ）する。

また、御滝本（おたきもと）より12本の大松明が出迎え扇神輿を浄める「御火（おひ）行事」が行われるため、「那智の火祭り」とも呼ばれ、荘厳で迫力ある祭礼を一目見ようと、全国から多くの参拝客が訪れる。

那智の扇祭りには数々の行事が伝わっており、御神前で奉納される「那智の田楽」については、昭和35年に和歌山県指定無形民俗文化財に、昭和51年に国の重要無形文化財に指定され、平成24年にはユネスコの無形文化遺産に認定された。

「那智の扇祭り」そのものについても、昭和35年に和歌山県指定無形民俗文化財となり、平成27年に国の重要無形民俗文化財に指定された。

その保持団体である那智の扇祭り保存会は、県の指定を受けた昭和35年に組織化され、熊野那智大社を中核として周辺地域の氏子や関係団体が協力し、祭礼の執行及び運営を行っている。伝統ある祭りの継承が全国的な課題となる中、長年にわたりその維持保存に努め、本県の文化振興に果たしてきた功績は計り知れない。

那智の扇祭りは、自然崇拝の色合いが濃く、日本固有の信仰や祭礼を理解する上で重要とされており、保存会の末永い活動に大きな期待が寄せられている。



◆主な表彰歴等

昭和35年 和歌山県指定無形民俗文化財
平成27年 国指定重要無形民俗文化財